

池田草庵先生に学ぶ会「贈姪盛游京師別言」

令和六年九月七日

(担当 北見 齋藤 高木)

贈姪盛游京師別言 (一)

原文

可_レ讀之書、非_レ乏也、可_レ告語之言、非_レ盡也、而今從_レ汝請、使_レ汝姑游_レ京師_一者、夫人近則狎、々則其言易、忽疎則敬、々則其言易入、

読み

讀む可きの書、乏しからざるなり、告げ語るべきの言、盡きざるなり。而し、今汝の請に従い、汝をとりあえず京師に遊ばしむ。夫れ人近ければ則ち狎^なれ、々れは則其言忽^{ゆるが}せにし易く、疎^{うと}んじて則ち敬、敬は則其言入り易し、

言葉

姑_レしばらく とりあえず 使_レシム させる 狎_レナレル
忽_レゆるがせにする 疎_レうとんじ 親密でない

訳文

読まねばならない書物が少ないわけではない。告げ語るべき言葉が尽きたわけではない。しかし、今、汝の願いにより、お前をとりあえず京師に遊学させる。それは人は近ければ馴れ合いになり、馴れると相手の言葉を忽^{ゆるが}せにしやすい。反対に親しくなくすると相手を疎^{おろそ}かにしなくなり、そうするとその言葉は身に入っていないきやすくなる。

原文

且予性本柔懦、學不能_レ日新、而無_レ以相淬勵也、
而如_レ京師友人源子賛、英邁峻整、尤務_レ進取、

読み

且つ予の性もと柔懦^{じゆうだ}、学は日に新たにする能わず。而して以て相淬勵^{さいれい}することなし。而るに、京師の友人源子賛の如きは、

英邁峻整、尤も進取に務め、

言葉

柔懦^{じゆうだ} 心が弱く気が小さい 淬励^{さいれい} 氣を引き締めて、つとめはげむ。

英邁^{えいまい} エイマイ ほかの人と比べて、才知が非常にすぐれている。

峻整^{しゅんせい} シュンセイ

訳文

それにもともと私の性質は意志が弱く、学んでも日々新たにすることはできない。努め励むこともしない。しかし京師の友人源子賛（春日潜庵）は、才知に優れ厳格であり、非常に意欲的に新し取り組もうと勉めている。

原文

相別一年有餘、其造詣必非^ニ復昔日、則接^ニ其人、聞^ニ其言、

亦可^ニ以振^ニ汝因循之志氣^ニ矣、

読み

相い別れて一年有余、其の造詣は必ず復た昔日に非ず。則ち其の人に接し、其の言を聞き、亦た以って汝の因循^{いんじゆん}の志氣を振るうべきなり。

言葉

造詣^{ぞうぎ} ゴウシ 学問の到達の程度。またすぐれた技量。

因循^{いんじゆん} インジュン ①しきたり通りにして改めないこと。思い切り

悪く、ぐずぐずしていること。志氣^{しき} 物事をなそうとする気持ち

意気込み 振^{ふる} 振^{ふる} ふるいおこす

訳文

（二人が）別れて一年余も経ったので、その学問の進み具合は、きつと昔のものとは違っているだろう。だからその人に接して、その言葉聞いて、お前のぐずぐずとする気持ちを振り払うべきである。